

呉錦堂を語る会通信

NO.43

Dec. 2018

発行 兵庫県明石市北朝霧丘2-8-34

橘 雄三 方「呉錦堂を語る会」

Tel. 078-911-1671

編集 「呉錦堂を語る会通信」編集委員

発行日 2018.4.1



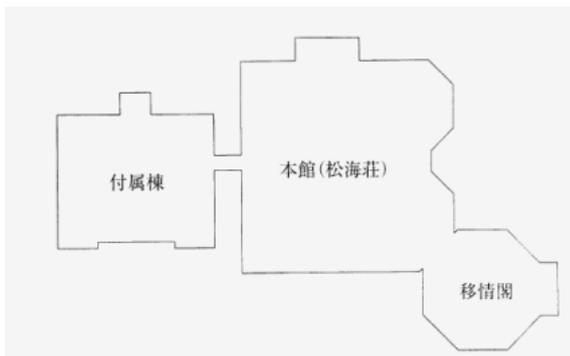
「松海荘の変遷」 1. 建築物の変遷

舞子浜に建てられた呉錦堂の別荘、松海荘の本館は1928年に取壊されたため、その歴史を知る人は少ない。また、遅れて1916年に建てられた移情閣（上棟は1915年）ですが、その特異な形状もあって、別荘全体が移情閣、あるいは、舞子の「六角堂」と呼ばれ、親しまれてきました。本号では、兵庫県発行『兵庫県指定重要有形文化財 移情閣移築修理工事報告書』（2001年）、（財）兵庫県園芸公園協会編集・発行『兵庫県立舞子公園百年史—明石海峡を見つめて—』（2001年）及び（公財）孫中山記念会発行『孫文記念館30年の歩み』（2015年）を主たる手引きとして、松海荘の変遷をたどります。

なお、本号掲載の画像について、特に断りがないものは、上記書籍からの転載です。（編集委員 橘 雄三）

変遷 1 付属棟は明治20年代後半(1892-96年)の建築

変遷 2 本館の竣工は明治44年(1911年)と推定



付属棟 ↓ ↓ 松海荘本館

← 変遷 3 大正5年～昭和3年 (1916～28年)

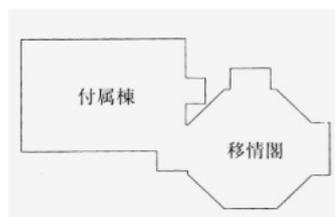
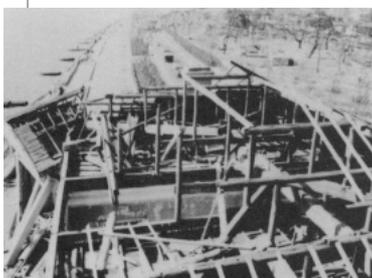
本館（松海荘）のベイウインドウ南東面の壁を共有する形で移情閣が増築され、移情閣の一、二階北西面には本館（松海荘）の外壁が残存し、当時塗られていた緑色の塗料の痕跡が残る



変遷 4 の時期 右手前より厨房棟、付属棟、移情閣

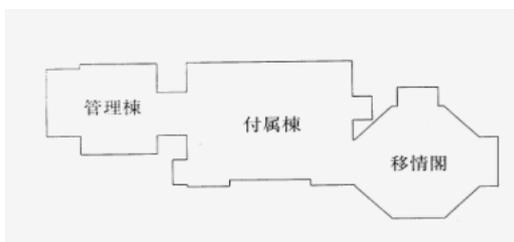
変遷 4 昭和3年～昭和42年 (1928～67年)

神明国道拡幅により、本館（松海荘）は取壊された。移情閣は当初の位置に残り、付属棟が曳屋により移築され、旧厨房棟が増設された



← 変遷 5 昭和42年～平成7年 (1967～95年)

昭和39、40年の台風により、付属棟の屋根及びヴェランダが倒壊し、昭和42年に行われた補修工事においてヴェランダの撤去、旧厨房棟が取壊され、また昭和57年に日中国交正常化10周年を記念し、建物が兵庫県に寄贈され、昭和59年から孫中山記念館として一般に公開された



← 変遷 6 復原平面 (2000年～現在)

移情閣と付属棟は解体移築され、付属棟は昭和42年の補修工事において撤去されたヴェランダを復原し、付属棟西側には孫中山記念館の活動を支援するため旧厨房棟の外観を復元した管理棟を建設した

2. [移情閣] の所有並びに管理・運営者の変遷

以後、別荘全体を[移情閣]と表記いたします。1928年の神明国道（現・国道2号線）拡幅工事に伴い、[移情閣]の土地の所有権は兵庫県へ移転し、[移情閣]は、県有地の上に設置許可を受けた公園施設となりました。従って、ここで、[移情閣]の所有者というとき、それはあくまで、建築物の所有権者を指します。

下の表は、前述図書3点をもとに編集委員が作成しました。なお、当頁の画像はすべて、孫文記念館所蔵です。

| [移情閣]の所有並びに管理・運営者の変遷 | |
|----------------------|---|
| 戦時・終戦直後 | 太平洋戦争期、海軍の憲兵隊、防空監視所、防衛隊本部などに使用された。終戦直後、舞子ホテルなど連合軍の宿舎になったところがあったが、[移情閣]は免れた。 |
| 昭和21年(1946年) | 呉錦堂合資会社、神戸中華青年会に[移情閣]の管理を委託。 |
| 昭和23年(1948年) | 陳徳仁、池田豊らが中心となり、孫文揮毫の「天下為公」を石碑にして[移情閣]敷地内に建立。(補注1) |
| 昭和37年(1962年) | 神戸中華青年会、[移情閣]の管理を陳徳仁、林同春、陳学忠に委任。 |
| 昭和41年(1966年) | [移情閣]は昭和39、40年の台風により大きな被害をこうむる。修復も含め、「孫中山記念館建設委員会」(委員長林同春、副委員長陳徳仁)発足。 移情閣の所有は、孫文の記念施設とすることを条件に、呉家から、東京、横浜、大阪、神戸の華僑14名の共同所有に移る。 廖承志中日友好協会会長から滔天会を経て孫文胸像が贈られる。現在、移情閣3階に設置。(補注2) |
| 昭和42年(1967年) | 修復工事施行 |
| 昭和58年(1983年) | 華僑共同所有者、神戸華僑総会を介して[移情閣]を兵庫県に寄付。 |
| 昭和59年(1984年) | [移情閣]、「孫中山記念館」として開館(平成17年、「孫文記念館」に改称)。広東省から友好訪問団を迎える。この時、梁霊光省長揮毫の扁額「孫中山記念館」が贈られる。(補注3) |
| 平成7年(1995年) | 中国国务院僑務弁公室主任廖暉氏(廖仲愷令孫)から孫文銅像が贈られる。平成12年(2000年)の復原開館まで、川崎重工業(株)本社に仮置きされ、現在は移情閣1階に設置。(補注4) |
| 平成12年(2000年) | [移情閣]、平成12年4月、元あった場所から南西約200mの地に復原開館(平成6年、明石海峡大橋の建設に伴い解体工事着工)。 |
| 平成13年(2001年) | [移情閣]、国の重要文化財に指定。 |

補注2 ■ 廖承志氏から贈られた孫文胸像



補注4 ■ 廖暉氏から贈られた孫文銅像



補注1 ■ 「天下為公」碑建立除幕式(1948年11月12日)
関係者集合写真



移情閣玄関上部に「神戸中華青年会」と表示のパネルが掲げられている



↑補注3 ■ 移情閣玄関ポーチ上部、「孫中山記念館」のネームプレート。右下に「梁霊光一九八四年三月」とあります。



「天下為公」碑

3. 藍璞氏執筆「回想－移情閣に仮住まいして」

本号、前頁の文章から、[移情閣]が戦後、神戸中華青年会の事務所兼活動の拠点になっていった様子がよくわかります。続いて、財団法人孫中山記念館理事、神戸華僑歴史博物館館長などを歴任された藍璞氏（1934-2016）の「回想－移情閣に仮住まいして」（孫文記念館館報『孫文』第5、6、7号）をとりあげます。

「回想」は、1953年10月、父親が興安丸（集団帰国船）で中国に帰り、高校3年生だった藍氏一人が日本に残るところからはじまります。氏は、神戸中華青年会派遣の「管理人」として3年間、[移情閣]に仮住まいします。ここでは、仮住まいの様子について、一部転載させていただきました。

《1. 藍璞氏執筆「回想－移情閣に仮住まいして」》

青年会の役員と私が移情閣に連なる2階建ての洋館に着くと、移情閣が呉錦堂の別荘の一部であった時からの住み込み管理人だった故N氏の夫人が、私の仮住まいの場となる2階南東端の、移情閣に隣接する部屋に案内してくれた。（中略）

翌日、1階に住む故N氏の家族（N夫人、長男夫妻と孫、長女）を訪ね、改めて着任の挨拶をし、「住人」達について夫人から簡単な説明を受けた。N一家は1階の北と西の部屋に住み、1階東の1室には、中国への集団帰国に備えて荷造りに追われている、中華青年会派遣の前管理人TK氏夫妻が住んでいた。私の部屋の北側の狭い1室は、SC氏の子息で、当時灘区のカナディアン・アカデミーで学ぶ少年の勉強部屋兼寝室で、階段を挟んで私の部屋の北西側に位置する大きな部屋にはSC氏夫妻が、その南隣の部屋にはSC氏の弟SK氏夫妻と子息が住んでいた。TK氏夫妻の帰国後、彼らの住んでいた部屋には、香港の留学生TH君が入居し、彼の転出後は、同じく香港から来た3人兄弟が入居した。

（中略）

夏場は、移情閣西側の舞子公園の擁壁上に海水浴客に休憩・脱衣・シャワーのサービスを提供する小屋が軒を連ねて営業して賑わっていた。そのような状況の下、中華青年会は華僑の要望に応じて、移情閣本体を除く施設を開放し、簡易シャワーや臨時の更衣室を設けて喜ばれた。（中略）



藍璞氏仮住まいのころの海水浴風景（1952年）

1956年10月の台風で、私の部屋の真上の屋根が壊れ、寝ながらにして夜空が見える状態になってしまったので、移情閣に別れを告げ、神戸大学文学部に近い、阪神岩屋駅近くの木賃アパートに引っ越した。

神戸中華青年会は1945年（昭和20年）終戦直後、陳徳仁氏（1917-1998、孫中山記念館第2代館長）ら神戸の華僑青年によって結成されました。移情閣の管理に当たるとともに、移情閣を拠点として活動を展開し、戦後神戸華僑史のうえで重要な役割を果たしました。

《2. 獅子文六『バナナ』の時代》

獅子文六の『バナナ』に、主人公の青年と女友達が[移情閣]を訪れるくだり、次のような箇所があります。

「廃墟のような石造洋館から、番人の婆さんが出てきた。（中略）呉錦堂の子孫が振わないので、この移情閣も、今は神戸華僑青年会の手に移り、夏は会員が水泳にくるが、常時は、番人夫婦が住んでるだけということだった」

番人の婆さんというのは、藍璞氏の「回想」に出てくるN夫人、中平初枝氏（1965年4月退職。以後、管理人不在）のことでしょう。そして、神戸華僑青年会という固有名詞は、ちょっと変えて記述されています。『バナナ』は1959年の作品ですから、獅子文六は、藍璞氏が住んでいたころの[移情閣]へ取材に来ていたかもしれません。

《3. 藍璞氏、高校3年生で中華青年会の総幹事》

「回想」の中で、藍璞氏は、「一高校生が、神戸中華青年会派遣の管理人とし移情閣に仮住まいするようになった」と記述されています。

一方、神戸華僑歴史博物館発行『読資会報告書1 戦後神戸華僑史の研究』（2018年）掲載、安井三吉論文「神戸華僑聯誼会史綱（1957-1976）」の記述によると、藍璞氏は、[移情閣]で仮住まいを始めたのとほぼ同時期、1953年9月開催の中華青年会第9期幹事選挙において総幹事に選出されています。

この点について、次頁で詳しく見ていきます。

4. [移情閣] を管理・運営する華僑団体の政治的スタンスの変化

戦後、前述のように、[移情閣]の所有者、並びに管理・運営者が変わりました。ここでは、中国における政治情勢の変化に伴い、[移情閣]がどのような位置付けのもとに、どのような役割をはたしてきたのかをたどります。このことは、下にあげた1969年9月19日付毎日新聞の記事や、次頁に記述する状況にも関係してきます。以下、前述、安井三吉論文「神戸華僑聯誼会史綱」及び論文添付の年表をもとに、この間の変化をたどります。論文からの引用は、あくまで、[移情閣]の戦後史に「そんな時代があったのだ」とご理解いただくに必要な最少範囲で、論文のごく一部に過ぎません。ご諒承ねがいます。「」は安井論文からの引用です。

「神戸中華青年会は戦後全くゼロから出発した組織として独自性を持つ組織である。この組織については第一に広東系の青年を中核としていたこと、第二に中国国民党の影響が強かったという点に注目しておきたい」

神戸中華青年会創立の中心人物の一人は陳徳仁氏です。氏は、1945年の第1期から4期続けて総幹事に選出されているように、人望がありました。そして、神戸中華青年会は「無党無派」の団体だというのが信条でした。

戦後、中国は国共内戦を経て、北京で中華人民共和国が成立し、中華民国政府は台湾へ逃れます。しかし、すでに1945年6月の国際連合創設時に米英ソとならんで招請国メンバー（後の常任理事国）となっていた中華民国は、国連の代表権を持っており、駐大阪総領事館を通じ、神戸の華僑社会へ政治的影響を及ぼします。

その後、この状況に変化が生じます。

「1953年は、華僑運動の面で大きな渦が巻き起こった一年だった。神戸では、華僑総会において台湾の『反共抗ソ』路線が提起される一方で、遺骨送還と帰国事業の開始にともたって大陸との交渉が始まり、そのことが神戸の華僑団体にも大きな影響を及ぼすことになる」

藍璞氏が1953年9月、神戸中華青年会大会で第9期の総幹事に選出されたという出来事は、そのような流れの一つです。

「この選挙結果は、中華青年会の性格を変え、その後の神戸の華僑運動に大きな影響を及ぼすものとなる。またこの変動は、中華青年会の『公産』である舞子の移情閣と中華青年会館のその後の歴史にも大きな転換点となった」

[移情閣]は何度も台風被害を受けました。特に、1964年、65年の被害は大きかった。1967年に修復工事が施行され、翌68年には、修復なった[移情閣]で五地区（東京、横浜、京都、大阪、神戸）理事聯誼会と華青聯代表大会が開催

されています。本号次頁にあげる写真のような毛沢東像やスローガン等のパネルはこれら会合の名残で、この状態が1969年の毎日新聞取材時、更には、74年の後述北京大学代表团訪問時まで続いていたと推察されます。

大島氏は神戸に住んでいた。三所建物の別荘。園で、建物の使用については兵庫

華僑、呉錦堂氏が六六年に建て、建物のある舞子公園は兵庫県本

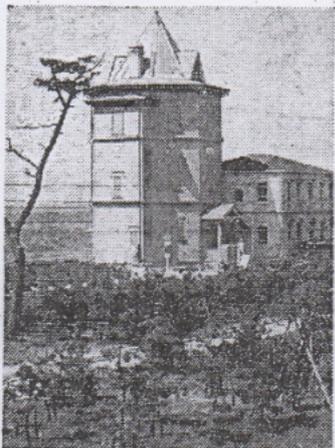
園で、建物の使用については兵庫

園で、建物の使用については兵庫

思想宣伝「ともものいい」

三カ月も開館おあずけ

中国革命の父、孫文が日本に命中に住んだといわれる神戸・舞子公園の「大島邸」を在日中国人が「孫中山記念館」として一般公開することにしたが、館内に毛沢東の大肖像写真を掲げていたため兵庫県が「県公園内に思想宣伝の場になる恐れがある」とクレームをあげ一般公開がストップしている。在日中国人たちは「現代中国の姿を紹介するだけだ。県の規制は中国敷設政策のあらわれ」と反論すれば、県は「なにぶん外交関係もないので」と弁明しており、一枚の毛沢東肖像写真をめぐって論争が巻き起こっている。



孫文記念館

問題の孫中山記念館

戦前は氏の一族が住み、戦後は神戸中華青年会が管理、集会などに利用してきた。四十年に台湾で別荘を手に入れた、在日中国人の身売り話を出したが、在日中国人たちの間で何となくこの建物を残したいとの声があがり、同青年会

なればならない。

戦前は氏の一族が住み、戦後は神戸中華青年会が管理、集会などに利用してきた。四十年に台湾で別荘を手に入れた、在日中国人の身売り話を出したが、在日中国人たちの間で何となくこの建物を残したいとの声があがり、同青年会

が中心になって全国の在日中国人から修復資金三千万円をつくり、四十二年十月に工事を終わった。青年会はこれを機に「孫中山記念館」を作り、館内に孫文の肖像を用いたヘッド、遺囑、写真を集め一般に公開することにした。昨年八月、兵庫県土庫公園内に敷地の占有許可願を出し、建物を記念館として一般公開する届けを提出した。

開館直前のこと、県の係員が視察した際、一階の壁に三枚ほどの大きさの毛沢東の肖像写真、現在の中国首脳が並んだ壁画が掲げてあったことから、県は「二つの思想に偏し、現在の中国を宣伝するようなことは県内は許されず」と申入れることも、県内の陳列品については事前県の許可を取るように指示した。

県土庫部の見解は「記念館として一般に公開し、教養施設として許可を受けている以上、学術的なものでなければならぬ。学術的な遺産ならいくら陳列してよい。たとえ毛沢東の肖像写真を現代中国人を政治に巻き込む」と迷惑

的になつたりを示すような陳列の仕方ならばよい。一般公開すれば小中学生も見学に来るようになるのだが、毛沢東個人とか中国の宣伝になるようでは困る。特定の人や団にかたよっては、公開という性格が好きくない。特に中国とは外交関係もないので、国際問題にもなりかねない」と神経をとがらせている。

これに対し、記念館復旧のリーダーである林同春さんは「神戸市東灘区野崎町一には「一般の人たちからも早く開館してくれ」との声を聞くが、陳列品について県から二つの規制されるのは迷惑なので、一般公開は中止してグループの中には思想問題だとしてきびしい態度を示している人もいる。われわれとしては政治にかかり合う気持はなく、現代中国の姿を知ってもらうつもりで、中国だけでなく、国府関係の展示もするつもりでした」と語り、在日華僑の一人は「県の発言は在日中国人を政治に巻き込む」と迷惑

5. 移情閣に毛沢東像があったころ

移情閣に毛沢東の胸像などが存在した時期のあったことは、寡聞にして知りませんでした。孫文記念館安井三吉名誉館長から、写真と新聞記事（前頁掲載の毎日新聞）のコピーをいただき、移情閣の歴史を風化させないためにもぜひ記録にとどめたいとこの記事を作成しました。下に掲載した写真2枚の撮影日時は、1973年11月となっています。また、この一年後の1974年11月19日には、北京大学社会科学友好代表団が移情閣を訪れています。代表団の交流活動は、京都大学人文科学研究所編『学問に架ける橋』（小学館 1976年）として発行されていますが、この内、交流日誌の11月19日の箇所を下にあげました。陳舜臣氏が案内されているのも興味深いです。



←左の写真、孫文胸像の上の赤いパネルには次の文章が記されています。

纪念伟大的革命先行者孙中山先生！

纪念他在中国民主革命准备时期，以鲜明的中国革命民主派立场，同中国改良派作了尖锐的斗争。他在这一场斗争中是中国革命民主派的旗帜。

纪念他在辛亥革命时期，领导人民推翻帝制、建立共和国的丰功伟绩。

纪念他在第一次国共合作时期，把旧三民主义发展为新三民主义的丰功伟绩。

他在政治思想方面留给我们许多有益的东西。

现代中国人，除了一小撮反动分子以外，都是孙先生革命事业的继承者。

1956年11月12日《纪念孙中山先生》毛沢東



↑上の写真は毛沢東胸像です。下の赤い台の部分には、「毛沢東同志は、現代におけるもっとも偉大なマルクス・レーニン主義者である。毛沢東同志は、天才的、創造的、全面的にマルクス・レーニン主義をうけつぎ、守り、発展させてマルクス・レーニン主義をまったく新しい段階に高めた」とあります。

この文章は、林彪が『毛主席語録』の再版のために書いたまえがきです。

十一月十九日（火）

いよいよ京都をはなれる。名神高速道路をバスで神戸大学へ。戸田義郎学長と会見。各学部長が同席される。昼、六甲山上で戸田学長主催の昼食会。神戸という土地がらもあって中国への親近感はつよい。教育制度などについてなごやかな懇談がつづく。六甲は満山紅葉し、眼下にのぞむ海が美しい。午後の講演会はストのため中止、作家陳舜臣氏らの案内で孫文ゆかりの六角堂を訪ねる。久しぶりにくつろいだりだった。

今日から仏教大學助教授吉田富夫氏が通訳をかねて随行して下さる。

「呉錦堂を語る会通信」バックナンバー一覧表



| 番 号 | 発行年月日 | 内 容 |
|------|------------|--|
| 第1号 | 2012. 4. 1 | 移情閣で「旧呉錦堂別邸」碑の除幕式举行 |
| 第2号 | 12. 5. 1 | 呉錦堂が開拓した神出小東野「お祭り訪問編」 |
| 第3号 | 12. 5. 1 | 呉錦堂が開拓した神出小東野「資料編」 |
| 第4号 | 12. 5. 1 | 聞き取り、小東野開拓百年史（1） |
| 第5号 | 12. 5. 1 | 聞き取り、小東野開拓百年史（2） |
| 第6号 | 12. 6. 1 | 聞き取り、小東野開拓百年史（3） |
| 第7号 | 12. 7. 1 | 新移情閣秘話ーコンクリート・ブロックに賭けた夢ー |
| 第8号 | 13. 6. 1 | 「松海別荘での孫文先生歓迎午餐会から百周年を記念する集い」開催 |
| 第9号 | 13. 8. 1 | 呉錦堂の故郷慈溪 その1（訪問記） 「大人物小故事」掲載開始（～第27号） |
| 第10号 | 13. 8. 15 | 呉錦堂の故郷慈溪 その2（呉錦堂墓表） |
| 第11号 | 13. 9. 1 | 1985年、マスメディアが取り上げた「呉錦堂 中国で“名誉回復”」 |
| 第12号 | 13. 10. 1 | 移情閣金唐紙の復元者上田尚氏を東京のアトリエに訪ねる |
| 第13号 | 14. 5. 15 | 呉錦堂の故郷慈溪 その3（章炳麟撰呉錦堂旧墓表発見記） |
| 第14号 | 14. 8. 1 | 一幅の掛け軸（移情閣前の呉錦堂）と一枚の写真（どの人が梁啓超？） |
| 第15号 | 14. 9. 15 | 蘇州に呉錦堂令孫、曹愛徳氏を訪ねる 大正15年1月16日付呉錦堂死亡記事 |
| 第16号 | 14. 10. 15 | 1927年、蒋介石、籠池通りの呉啓藩邸を経て有馬へ |
| 第17号 | 15. 1. 15 | 孫穂芳女子寄贈孫文像、除幕式举行 聞き取り、小東野開拓百年史（4） |
| 第18号 | 15. 5. 15 | 呉錦堂は孫文と宋慶齡の結婚式に出席したか？ 呉錦堂令孫、魏瑜氏来館 |
| 第19号 | 15. 7. 1 | 2015年5月、建築史家足立裕司氏を講師に「移情閣上棟百周年記念講演会」開催 |
| 第20号 | 15. 8. 15 | 曹愛徳氏著「大人物小故事 我的外公呉錦堂」から2話転載 |
| 第21号 | 15. 9. 15 | 呉錦堂の土地所有は栄町通1丁目にはじまる！ |
| 第22号 | 15. 9. 15 | 呉錦堂は籠池通りの新邸に住んだか？ |
| 第23号 | 15. 10. 15 | 呉錦堂の商号、「養生栄」と「怡生」 移情閣の設計者「横山栄吉考」 |
| 第24号 | 16. 1. 15 | 呉錦堂の舞子地域の土地所有について |
| 第25号 | 16. 4. 1 | 「同時代」紙誌に見る呉錦堂像 武藤山治回想録に見る呉錦堂像 |
| 第26号 | 16. 4. 1 | 外務省文書に登場する呉錦堂の商号「養生」 獅子文六『バナナ』と移情閣 |
| 第27号 | 16. 4. 15 | 「続・横山栄吉考」 籠池通り呉錦堂邸と六甲山ホテル |
| 第28号 | 16. 7. 1 | 山電舞子公園駅近くにあった呉邸 2003年、移情閣で陳舜臣×玉岡かおる対談 |
| 第29号 | 16. 7. 15 | 小東野開拓の原資料「神出村役場文書」 呉錦堂「二頭立て馬車」で兜町に |
| 第30号 | 16. 11. 1 | 武藤山治と呉錦堂 |
| 第31号 | 16. 12. 15 | 呉錦堂、移情閣、孫文が登場する陳舜臣『囚人の斧』 孫文と呉錦堂の関係 |
| 第32号 | 17. 4. 1 | 上ノ山の呉錦堂邸跡の特定 呉錦堂の孫文支援 |
| 第33号 | 17. 5. 15 | 『続刻杜白両湖全書』に見る呉錦堂の故郷慈谿での水利事業 |
| 第34号 | 17. 6. 15 | 神戸日華実業協会、大倉山に「博愛」碑建立 呉錦堂の大阪時代 |
| 第35号 | 17. 10. 1 | 『浙慈 呉錦堂先生六旬榮壽録』「序」日本語訳 黒部亨著『兵庫人国記』 |
| 第36号 | 17. 10. 15 | 『浙慈 呉錦堂先生六旬榮壽録』「壽言」（前半）日本語訳 |
| 第37号 | 17. 11. 15 | 『浙慈 呉錦堂先生六旬榮壽録』「壽言」（後半）日本語訳 |
| 第38号 | 17. 12. 1 | 明石市桜町、街並みの原型に呉錦堂の土地所有が大きく影響 |
| 第39号 | 18. 2. 15 | 『呉錦堂先生哀思録』紹介 |
| 第40号 | 18. 3. 1 | 呉錦堂の大阪時代（続） |
| 第41号 | 18. 4. 1 | 呉錦堂、中国浙江省温州市近郊で鉱山を経営 |
| 第42号 | 18. 12. 1 | 呉錦堂の東亜セメント(株)経営 |
| 第43号 | 18. 12. 15 | 松海荘の変遷 |